

# 東かがわ市

## 人権に関する市民意識調査

### 報告書 2



トラッピー    ハートラ  
(東かがわ市人権キャラクター)

令和元年度

東かがわ市

# 目 次

## 調査結果

- 10 性的少数者(LGBT など)の人権について1
- 11 情報通信技術(インターネット等)による人権侵害について5
- 12 同和(部落)問題について7
- 13 外国人の人権について 16
- 14 差別解消に向けての取組み等について 20
- 15 自由意見 27

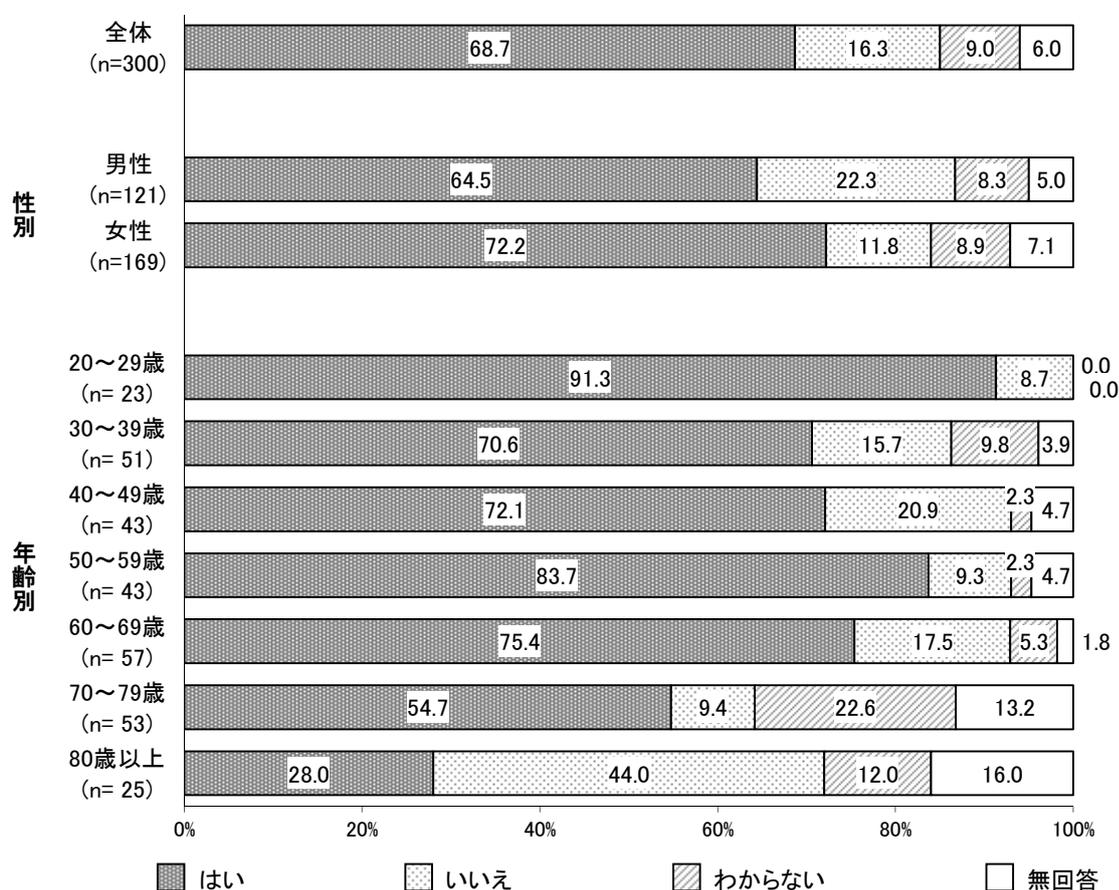
## 10 性的少数者（LGBT など）の人権について

問16 あなたはLGBTという言葉を知っていますか。（1つに○）

LGBTという言葉について認知度をみると、『知っている』（「はい」と回答）は68.7%、『知らない』（「いいえ」または「わからない」と回答）は25.3%で、4人に1人は知らない状況となっています。

性別でみると、男性は『知っている』が64.5%、『知らない』が30.6%、女性は『知っている』が72.2%、『知らない』が20.7%で、女性のほうが男性より認知度が7.7%高くなっています。

年齢別でみると、20～29歳では『知っている』が91.3%と最も高くなっています。70歳以上では認知度は他の年齢と比べて低くなっており、80歳以上では『知っている』は28.0%で、『知らない』（56.0%）が半数を超えています。

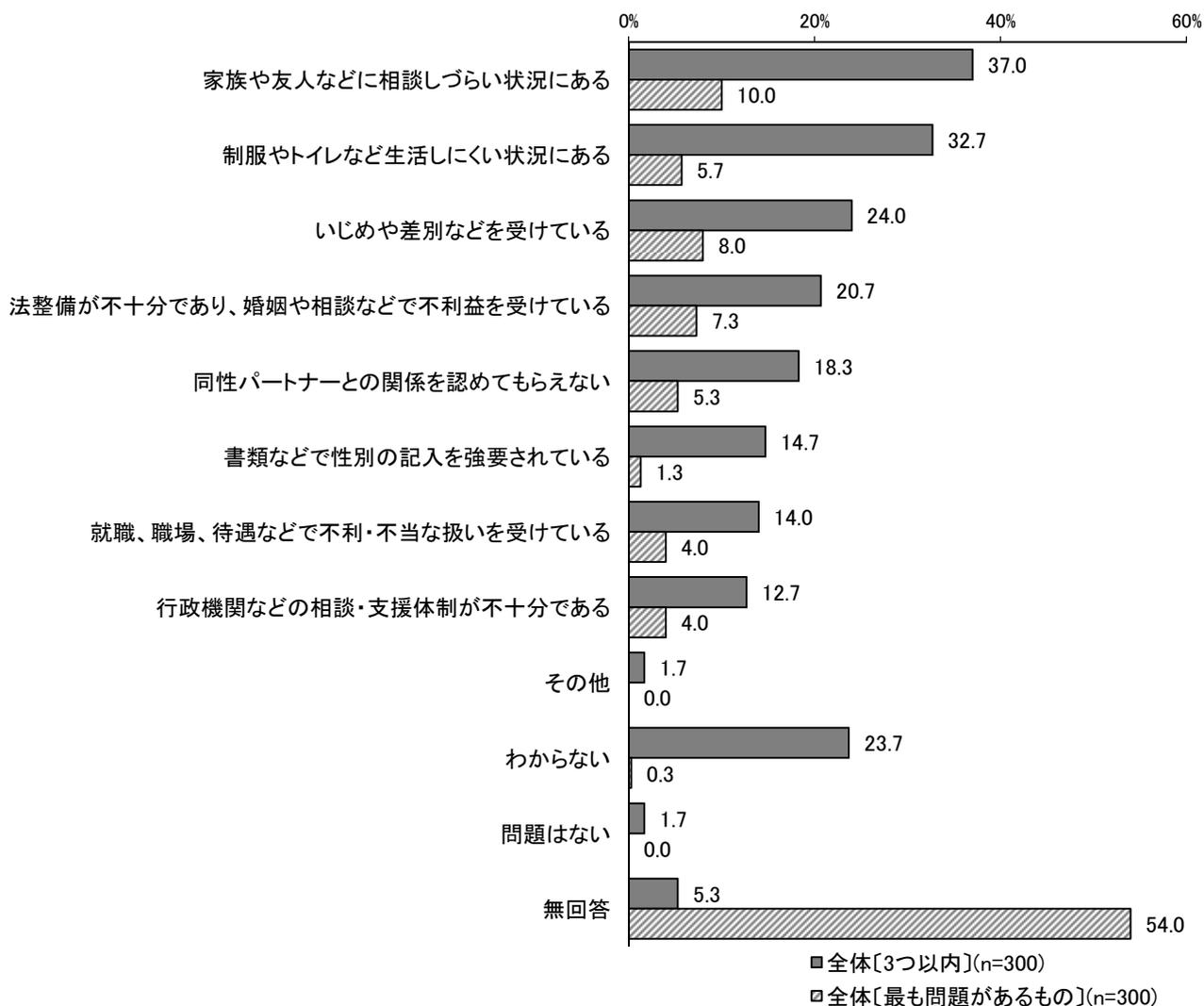


問17 性的少数者（LGBTなど）の人権について、どのような場面で問題があると思いますか。（〇は3つ以内で、そのうち最も問題があるものひとつに◎）

性的少数者（LGBTなど）の人権のことがらについてみると、「家族や友人などに相談しづらい状況にある」が37.0%で最も高く、次いで「制服やトイレなど生活しにくい状況にある」が32.7%、「いじめや差別などを受けている」が24.0%、「わからない」が23.7%、「法整備が不十分であり、婚姻や相談などで不利益を受けている」が20.7%となっています。

そのうち、性的少数者（LGBTなど）の人権について最も問題があるものは、「家族や友人などに相談しづらい状況にある」が10.0%で最も高く、次いで「いじめや差別などを受けている」が8.0%、「法整備が不十分であり、婚姻や相談などで不利益を受けている」が7.3%、「制服やトイレなど生活しにくい状況にある」が5.7%となっています。

性的少数者（LGBTなど）の人権問題については、他の人権課題に比べて「わからない」の回答割合が高いことが、大きな課題であるともいえます。つまり、性的少数者（LGBTなど）の人権問題自体の認知が課題であるといえます。

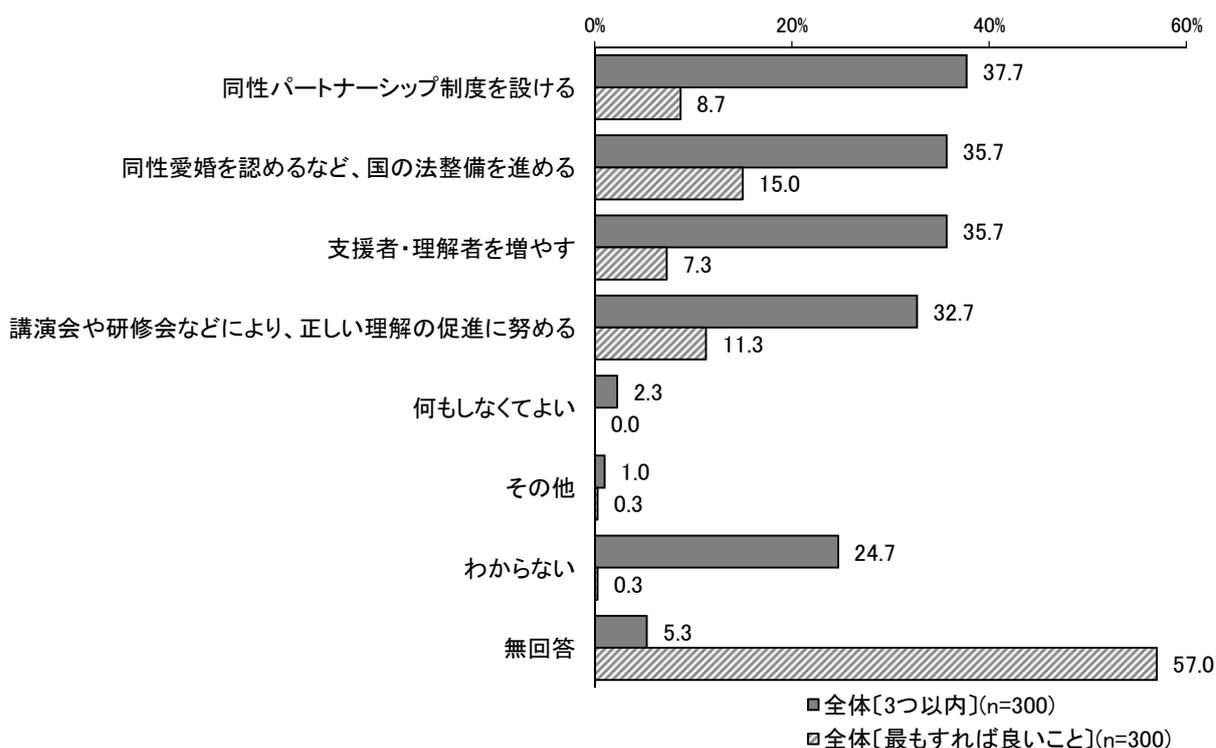


問18 性的少数者（LGBTなど）の人権を守るには、どのようなことをすれば良いと思いますか。（〇は3つ以内で、そのうち最もすれば良いことひとつに◎）

性的少数者（LGBTなど）の人権を守ることがらについてみると、「同性パートナーシップ制度を設ける」が37.7%で最も高く、次いで「同性愛婚を認めるなど、国の法整備を進める」と「支援者・理解者を増やす」がともに35.7%、「講演会や研修会などにより、正しい理解の促進に努める」が32.7%、「わからない」が24.7%となっています。

そのうち、性的少数者（LGBTなど）の人権を守るために最もすれば良いことは、「同性愛婚を認めるなど、国の法整備を進める」が15.0%で最も高く、次いで「講演会や研修会などにより、正しい理解の促進に努める」が11.3%、「同性パートナーシップ制度を設ける」が8.7%、「支援者・理解者を増やす」が7.3%となっています。

問17と同様に性的少数者（LGBTなど）の人権を守るための取り組みについても、「わからない」の回答割合が高いことから、性的少数者（LGBTなど）の人権課題が十分に周知されていないことが分かります。性的少数者（LGBTなど）が何で困っているのか、どのような人権侵害を受けているのかを情報発信する必要があります。

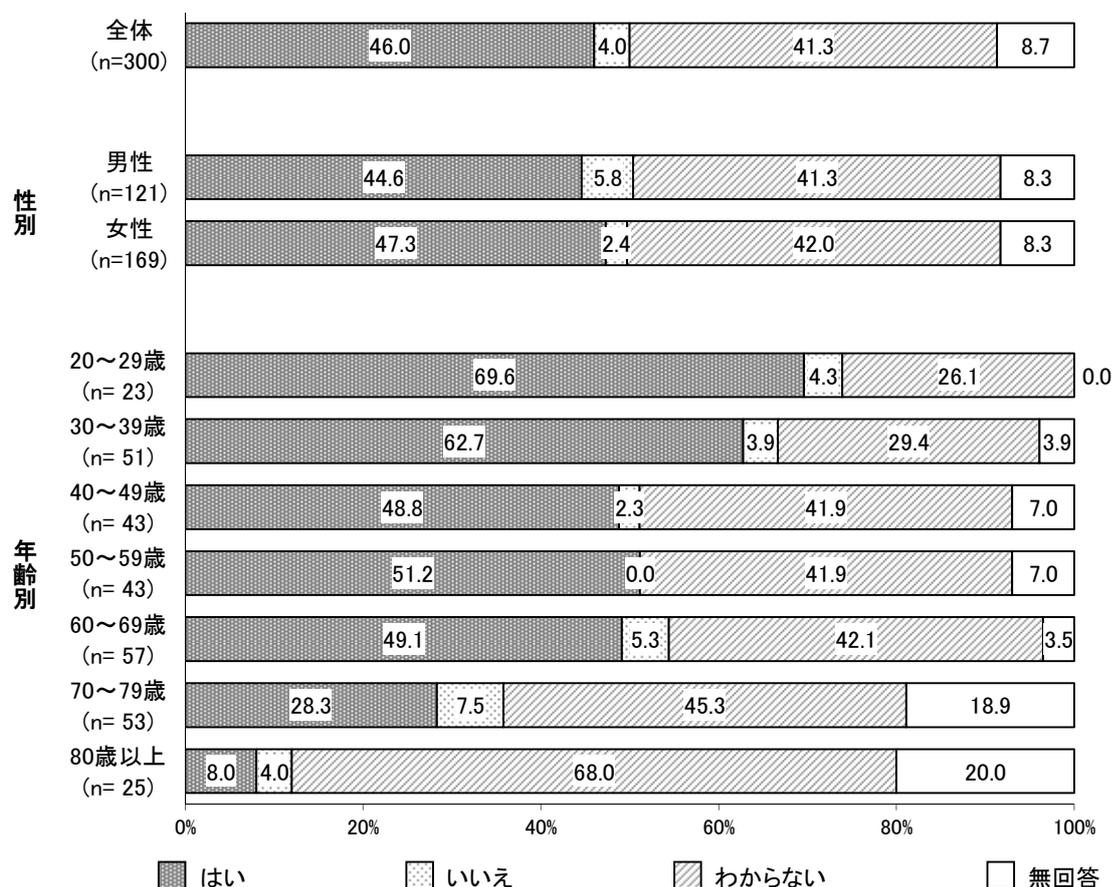


問19 現在「同性パートナーシップ制度」を制定している自治体がありますが、必要だと思いますか。（1つに○）

「同性パートナーシップ制度」の必要性についてみると、「はい」が46.0%、「わからない」が41.3%、「いいえ」が4.0%となっています。必要と思う人とわからない人の割合がほぼ同率となっています。

性別でみると、男性は「はい」が44.6%、「いいえ」が5.8%、女性は「はい」が47.3%、「いいえ」が2.4%で、「はい」は女性のほうが高くなっており、「いいえ」は男性のほうが高くなっています。

年齢別でみると、20～29歳と30～39歳では「はい」が高く6割を超えており、年齢が高くなるにつれて低くなる傾向となっており、80歳以上では8.0%と低くなっています。一方、80歳以上では「わからない」が最も高く6割を超えており、年齢が高くなるにつれて回答割合が高くなっています。



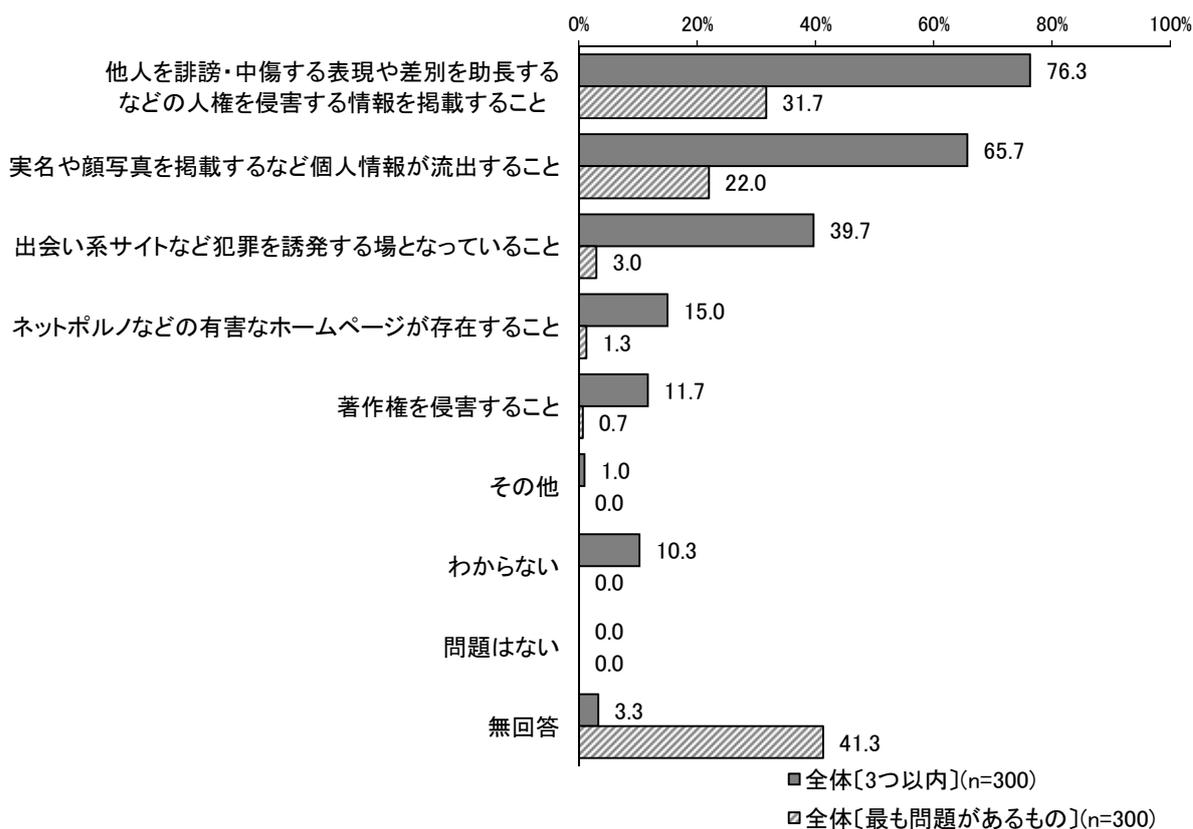
## 11 情報通信技術（インターネット等）による人権侵害について

問20 情報通信技術（インターネット等）による人権侵害として、特に問題があると思われるのはどのようなことですか。（〇は3つ以内で、そのうち最も問題があるものひとつに◎）

情報通信技術（インターネット等）による人権侵害のことがらについてみると、「他人を誹謗・中傷する表現や差別を助長するなどの人権を侵害する情報を掲載すること」が76.3%で最も高く、次いで「実名や顔写真を掲載するなど個人情報を流出すること」が65.7%、「出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっていること」が39.7%となっています。

そのうち、情報通信技術（インターネット等）による人権侵害について最も問題があるものは、「他人を誹謗・中傷する表現や差別を助長するなどの人権を侵害する情報を掲載すること」が31.7%で最も高く、次いで「実名や顔写真を掲載するなど個人情報が流出すること」が22.0%となっています。

「情報通信技術（インターネット等）」については、技術自体に問題があるわけではなく、「本人の意に反して」掲載すること自体が問題であるということを経後啓発していかなければいけません。



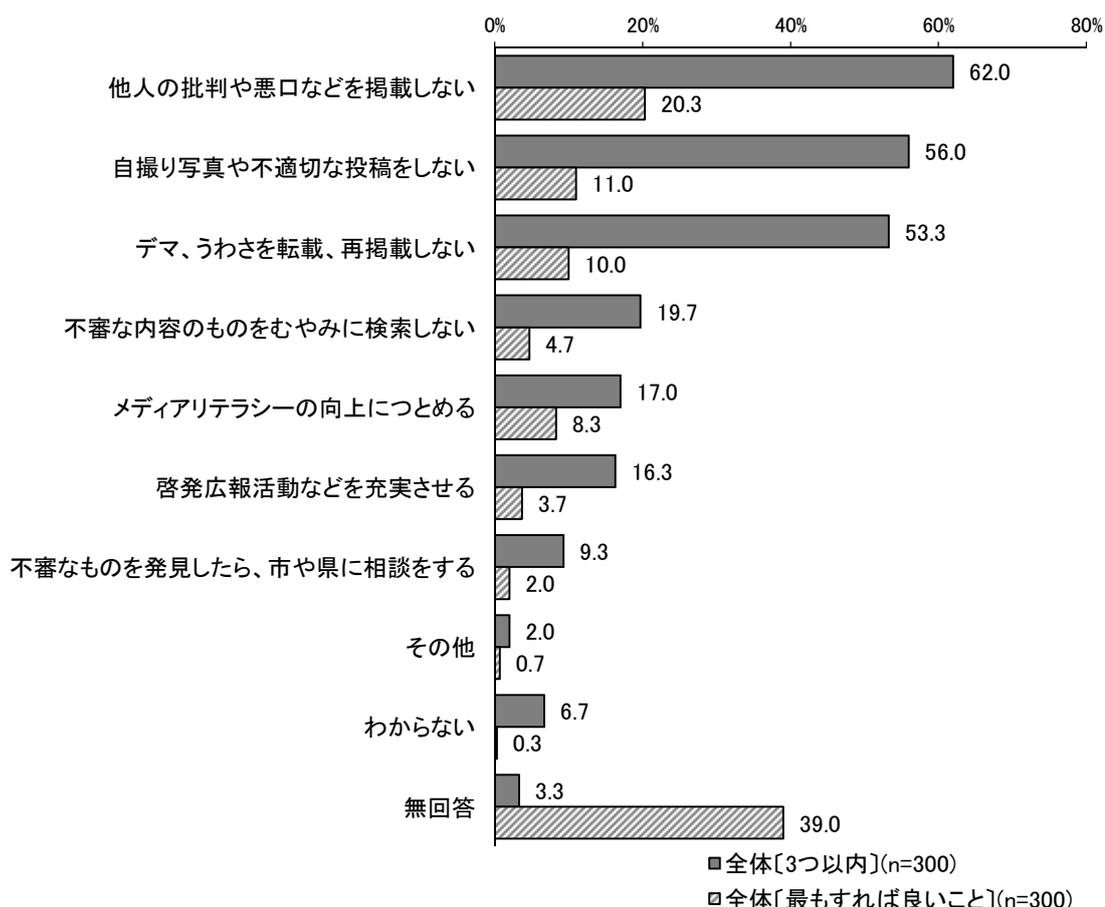
問21 情報通信技術（インターネット等）による人権侵害から自分や他人を守るには、どのようなことをすれば良いと思いますか。  
 （〇は3つ以内で、そのうち最もすれば良いことひとつに◎）

情報通信技術（インターネット等）による人権侵害から自分や他人を守ることがらについてみると、「他人の批判や悪口などを掲載しない」が62.0%で最も高く、次いで「自撮り写真や不適切な投稿をしない」が56.0%、「デマ、うわさを転載、再掲載しない」が53.3%となっています。

そのうち、情報通信技術（インターネット等）による人権侵害から自分や他人を守るために最もすれば良いことは、「他人の批判や悪口などを掲載しない」が20.3%で最も高く、次いで「自撮り写真や不適切な投稿をしない」が11.0%、「デマ、うわさを転載、再掲載しない」が10.0%、「メディアリテラシーの向上につとめる」が8.3%となっています。

例えば、インターネットの操作方法は説明書きに書かれていますが、利用にあたっての人権上の配慮についての周知・啓発が課題です。

そして、誰もが住みよいまちづくりのために、差別を助長する情報や人権侵害の情報を発見した場合は、市役所人権推進課への相談を周知していく必要があります。



## 12 同和（部落）問題について

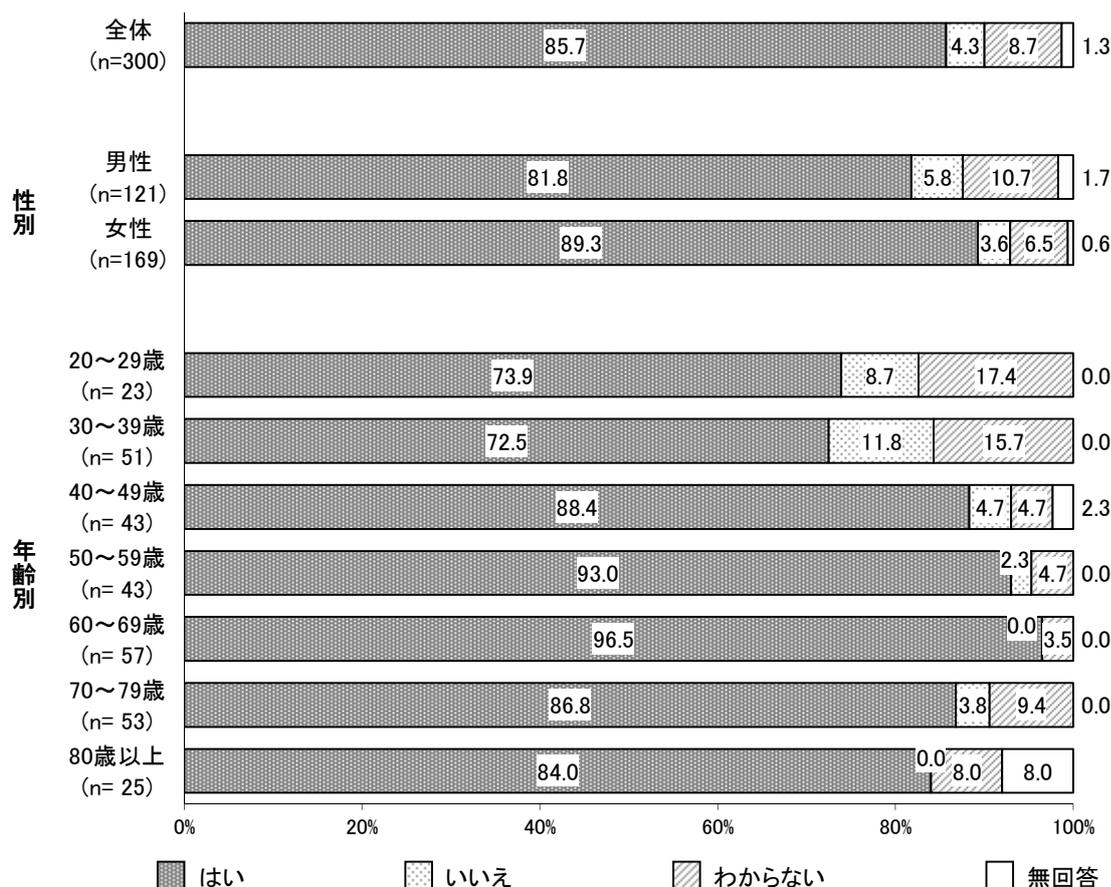
問22 あなたは「同和問題」のことを知っていますか。（1つに○）

「同和問題」の認知度についてみると、『知っている』（「はい」と回答）が85.7%、『知らない』（「わからない」または「いいえ」と回答）が13.0%となっています。

性別でみると、男性は『知っている』が81.8%、『知らない』が16.5%、女性は『知っている』が89.3%、『知らない』が10.1%となっており、女性のほうが男性より認知度が7.5%高くなっています。

年齢別でみると、50～59歳と60～69歳で『知っている』が高く9割を超えています。一方、20～29歳と30～39歳では『知らない』が高く、20～29歳は26.1%、30～39歳は27.5%となっています。

「同和問題」「部落差別」については、いわゆる「寝た子を起こすな論」が根強くあります。しかし、近年はインターネット上での悪質な差別書き込みが増加しているという実態があります。市民一人ひとりが同和問題について正しい知識を得ることが重要であることから、しあわせづくり研修会や講演会等を通じて人権啓発の充実が重要だと考えられます。



前回調査と比較すると、『知っている』が9.3ポイント減少、『知らない』が0.9ポイント増加しています。

若年世代では同和問題を知らない、あるいは関心がない割合が増加しつつあると考えられます。学校では必ず部落差別問題を授業で学んでいますが、認知実態は低下傾向にあります。

#### ▽前回調査との比較（単位％）

選択項目		今回調査	前回調査	対前回比
1	はい	85.7	95.0	△9.3
2	いいえ	4.3	3.4	0.9
3	わからない※1	8.7		
	無回答	1.3	1.7	△0.4

※1 今回調査のみの項目

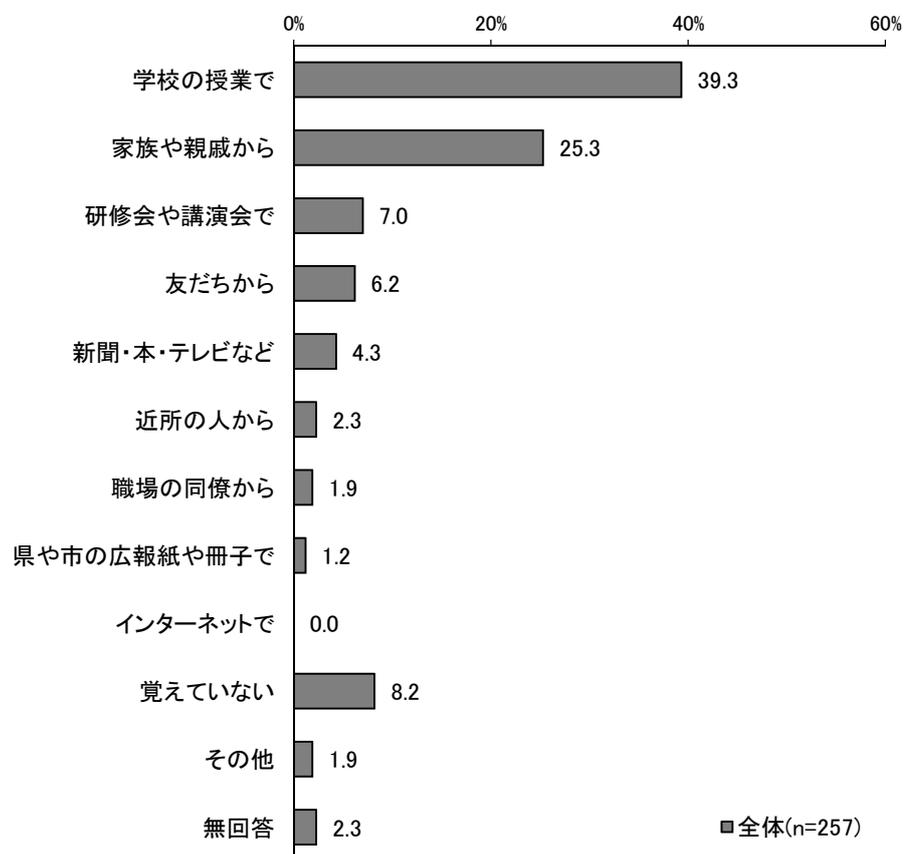
問22で1. と答えた方にお聞きします。

問23 あなたが、同和問題について初めて知ったきっかけは何ですか。（1つに○）

同和問題について初めて知ったきっかけについてみると、「学校の授業で」が39.3%で最も高く、次いで「家族や親戚から」が25.3%となっています。

年齢別でみると、49歳以下の年齢では「学校の授業で」が最も高く、40～49歳が78.9%と最も高くなっています。50～59歳では「家族や親戚から」が50.0%と最も高くなっています。70～79歳では「覚えていない」が最も高くなっています。

同和問題を知るきっかけについては、学校の授業の改善と合わせて、保護者啓発の在り方についても見直しが必要です。生徒が学校で同和問題を正しく学んでも、家庭で保護者が予断や偏見に満ちた話や根拠のない差別的な内容の噂等を行うことで、子どもが差別意識を内面化する恐れがあります。教育現場と各家庭が連携して、市民一人ひとりが自らの人権課題として差別解消への実践を行うような市民意識の醸成に取り組む必要があると考えられます。



### ▽年齢別（単位％）

	回答者数（n）	学校の授業で	家族や親戚から	研修会や講演会で	友だちから	新聞・本・テレビなど	近所の人から	職場の同僚から	県や市の広報紙や冊子で	インターネットで	覚えていない	その他	無回答
全体	257	39.3	25.3	7.0	6.2	4.3	2.3	1.9	1.2	-	8.2	1.9	2.3
20～29歳	17	58.8	17.6	5.9	5.9	-	-	-	-	-	5.9	-	5.9
30～39歳	37	73.0	13.5	-	5.4	-	-	-	-	-	8.1	-	-
40～49歳	38	78.9	10.5	2.6	-	-	2.6	-	2.6	-	-	-	2.6
50～59歳	40	25.0	50.0	5.0	5.0	2.5	2.5	-	-	-	5.0	2.5	2.5
60～69歳	55	27.3	34.5	10.9	10.9	3.6	-	5.5	-	-	5.5	1.8	-
70～79歳	46	15.2	17.4	13.0	4.3	8.7	6.5	2.2	-	-	19.6	6.5	6.5
80歳以上	21	-	23.8	9.5	14.3	19.0	4.8	4.8	9.5	-	14.3	-	-

※ 網掛けは、最も割合の高い項目

前回調査と比較すると、「学校の授業で」が10.7ポイント増加、「友だちから」が5.0ポイント減少しています。

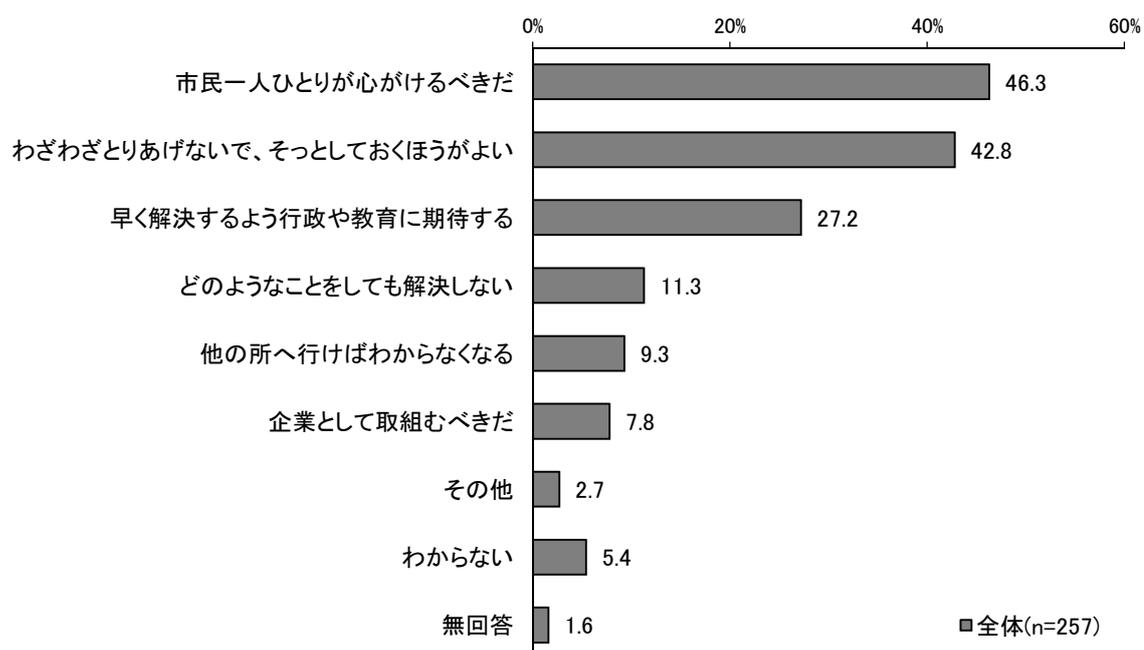
### ▽前回調査との比較（抜粋）（単位％）

選択項目		今回調査	前回調査	対前回比
1	学校の授業で	39.3	28.6	10.7
2	家族や親戚から	25.3	26.6	△1.3
3	研修会や講演会で	7.0	5.3	1.7
4	友だちから	6.2	11.2	△5.0
5	新聞・本・テレビなど	4.3	5.9	△1.6

問24 あなたは、同和問題について次のような考えをどう思いますか。あなたの考えに近いものを選んでください。（あてはまるものすべてに○）

同和問題についてのことがらを見ると、「市民一人ひとりが心がけるべきだ」が46.3%で最も高く、次いで「わざわざとりあげないで、そっとしておくほうがよい」が42.8%、「早く解決するよう行政や教育に期待する」が27.2%となっています。

同和問題について、偏見だけでなく、取り上げないことで自然に解決していくと感じている人が多いと考えられます。この問題はそっとしておくのではなく、正しいことを知り、間違った認識をしないことを進めていくことが大切です。



問25 あなたが結婚する時に、同和問題が出てきた場合、あなたならどうされますか。  
(1つに〇)

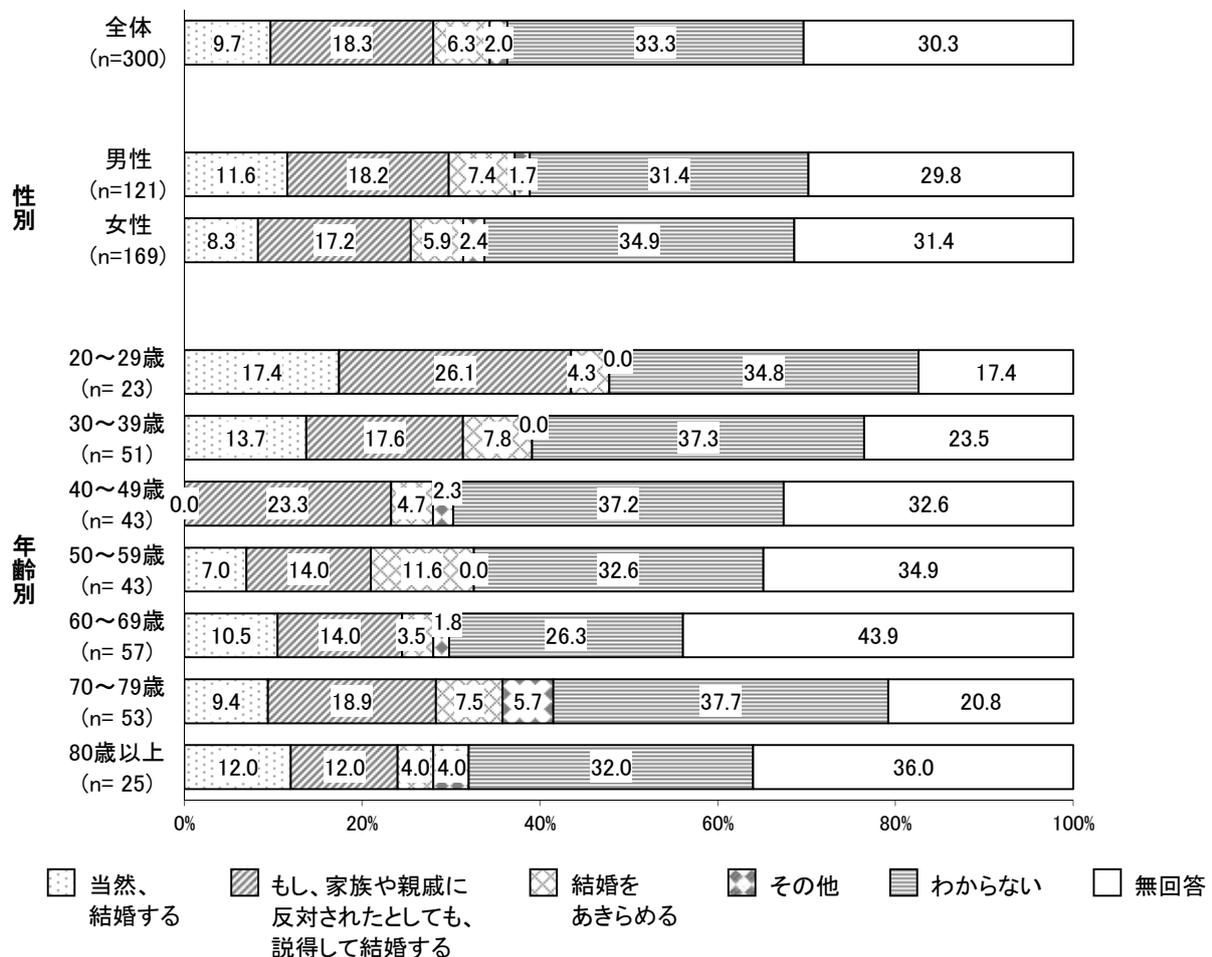
自分が結婚する時に、同和問題が出てきた場合についてみると、「わからない」が33.3%と最も高く、次いで「もし、家族や親戚に反対されたとしても、説得して結婚する」18.3%、「当然、結婚する」が9.7%、「結婚をあきらめる」が6.3%となっています。

性別でみると、男女とも「わからない」が最も高く、女性のほうがやや高くなっています。男性は「当然、結婚する」が11.6%、女性は「当然結婚する」が8.3%となっており、男性のほうがやや高くなっています。

年齢別でみると、20～29歳では「当然、結婚する」、「もし、家族や親戚に反対されたとしても、説得して結婚する」が他の年齢と比べて高くなっており、「もし、家族や親戚に反対されたとしても、説得して結婚する」は2割を超えています。また、40～49歳でも「もし、家族や親戚に反対されたとしても、説得して結婚する」が23.3%と2割を超えています。50～59歳では「結婚をあきらめる」が11.6%と高くなっています。

本来は双方の合意によってのみ成立するはずの結婚の自由が、様々な社会的差別によって妨害されている結婚差別の現実を正しく知る必要があります。学校の授業等で同和問題に対する正しい理解を深めるとともに同時に保護者啓発において、「授業と保護者啓発は両輪の輪」と対等に位置づけ、多くの保護者が参加できるように配慮して進めることが重要だと考えられます。

また、結婚差別が起きた場合の解決方法、例えば市役所や法務局、人権擁護委員等に相談する、反対者を説得してもらうために行政や勤め先企業にも協力を求める方法等を啓発することも必要と考えられます。



回答対象者が異なるので参考値ながら、前回調査と比較すると、回答割合が最も高い「わからない」が、前回より10.6ポイント減少し、「その他」以外の他の項目でも前回より減少しています。その分、今回調査では無回答が増加しています。

「わからない」と「無回答」には対応方法が分からない回答者も含まれていると思われる。市人権推進課や相談窓口を利用するなど、身近なところでできることを教育や啓発活動で周知することが必要です。市としても、プライバシーに配慮したうえで、反対を克服して結婚した人たちの事例を紹介するなど、「しあわせづくり」の推進に努めなければなりません。

#### ▽前回調査との比較（抜粋）（単位％）

選択項目		今回調査	前回調査※ <sup>1</sup>	対前回比
1	当然、結婚する※ <sup>2</sup>	9.7	17.4	△7.7
2	もし、家族や親戚に反対されたとしても、説得して結婚する	18.3	20.0	△1.7
3	結婚をあきらめる	6.3	16.8	△10.5
4	その他	2.0	1.9	0.1
5	わからない	33.3	43.9	△10.6
	無回答	30.3	0.0	30.3

※<sup>1</sup> 前回調査は現在結婚していない人のみ回答、今回調査は全員が回答

※<sup>2</sup> 前回調査は「当然、結婚する」と「家族や親戚の反対を押し切ってでも、結婚する」の計

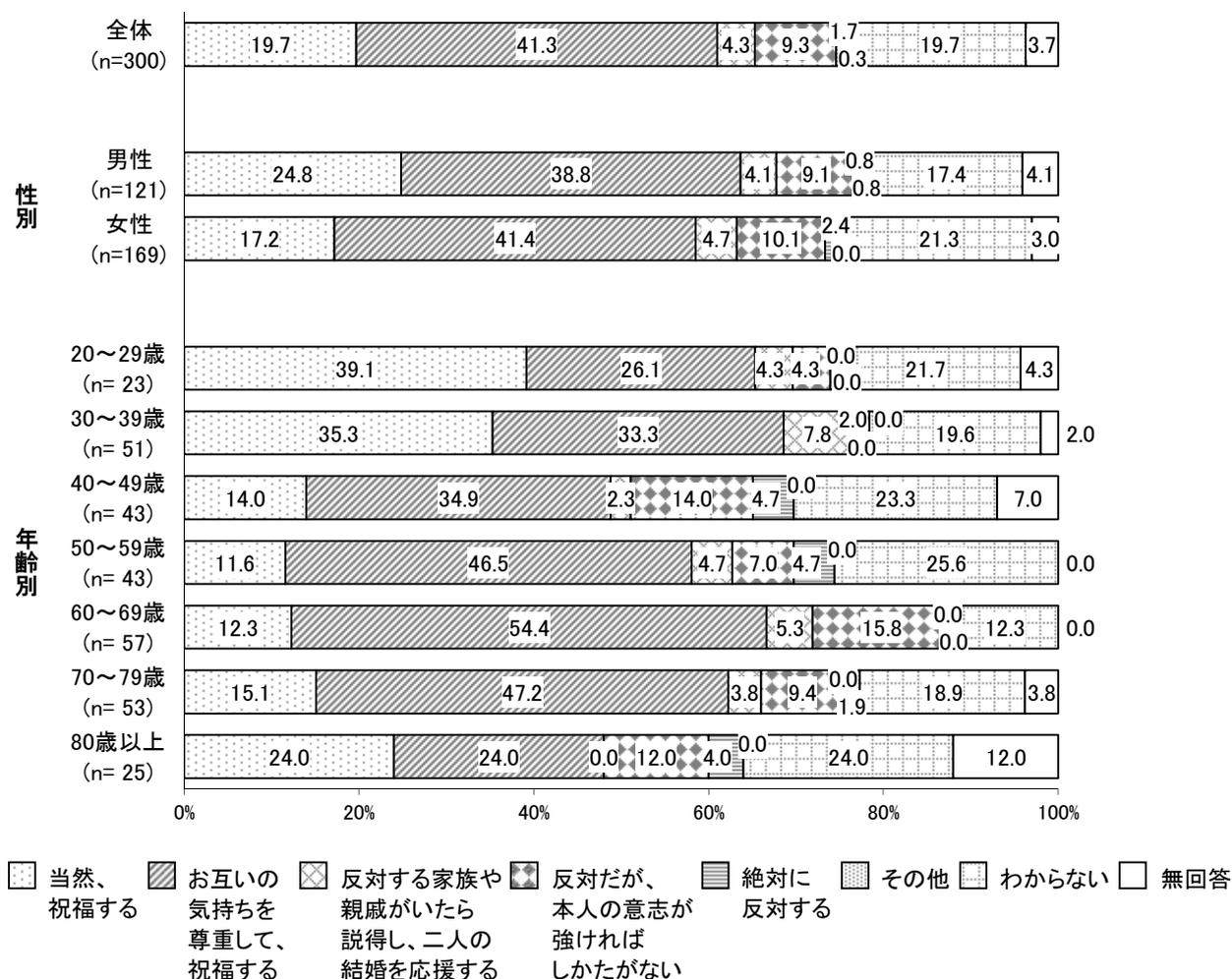
問26 あなたのまわりで結婚をする人がいて、同和問題が出てきた場合、どうされますか。(1つに〇)

自分のまわりで結婚をする人に同和問題が出てきた場合についてみると、「お互いの気持ちを尊重して、祝福する」が41.3%で最も高く、次いで「当然、祝福する」と「わからない」がともに19.7%となっています。『賛成』（「お互いの気持ちを尊重して、祝福する」または「当然、祝福する」または「反対する家族や親戚がいたら説得し、二人の結婚を応援する」と回答）が合計65.3%と高くなっていますが、「わからない」とする意見も約2割を占めています。

性別でみると、『賛成』は男性が67.7%、女性が63.3%となっており、男性のほうがやや高くなっています。また、男性は「当然祝福する」が24.8%で、女性（17.2%）より7.6%高くなっています。

年齢別でみると、20～29歳では「当然、祝福する」が39.1%と最も高く、30～39歳も35.3%と高くなっています。30～39歳は『賛成』が76.4%と最も高く、80歳以上は『賛成』が48.0%と最も低くなっています。60～69歳では「反対だが、本人の意志が強ければしかたがない」が15.8%とやや高くなっています。

結婚問題では当事者同士が強い態度を持つことが重要と思われることから、個々が意識を改め、相手の家柄や血筋にこだわるのではなく、その人個人を評価し、一人ひとりの人権、お互いの人権が尊重する意識の醸成が必要です。



前回調査と比較すると、「お互いの気持ちを尊重して、祝福する」が15.2ポイント、「当然、祝福する」は11.6ポイントそれぞれ増加しています。『賛成』（「お互いの気持ちを尊重して、祝福する」または「当然、祝福する」または「反対する家族や親戚がいたら説得し、二人の結婚を応援する」と回答）は、前回に比べて26.7ポイント増加しています。一方、「反対だが、本人の意志が強ければしかたがない」は20.9ポイント、「絶対に反対する」は5.4ポイントそれぞれ減少しています。

前回調査における、子どもや孫の結婚相手が同和地区の出身であるとわかった場合と子どもや孫の結婚相手と限定せずにあつた今回調査との差は、自分の親族であるかどうかの違いであることが考えられます。

「婚姻は両性の合意のみによって成立」（憲法第24条）する、このことを引き続き教育・啓発活動の中で周知していかなければなりません。

### ▽前回調査との比較（抜粋）（単位％）

選択項目		今回調査	前回調査 <sup>※1</sup>	対前回比
1	当然、祝福する	19.7	8.1	11.6
2	お互いの気持ちを尊重して、祝福する	41.3	26.1	15.2
3	反対する家族や親戚がいたら説得し、二人の結婚を応援する	4.3	4.4	△0.1
4	反対だが、本人の意志が強ければしかたがない <sup>※2</sup>	9.3	30.2	△20.9
5	絶対に反対する	1.7	7.1	△5.4
6	その他	0.3	2.0	△1.7
7	わからない	19.7	22.0	△2.3
	無回答	3.7	0.0	3.7

※1 前回調査は「お子さんやお孫さんが結婚を決めた人が、同和地区の出身であるとわかった場合」、今回調査は「あなたのまわりで結婚をする人がいて、同和問題が出てきた場合」についての設問

※2 前回調査は「親としては反対だが、本人の意志が強ければしかたがない」

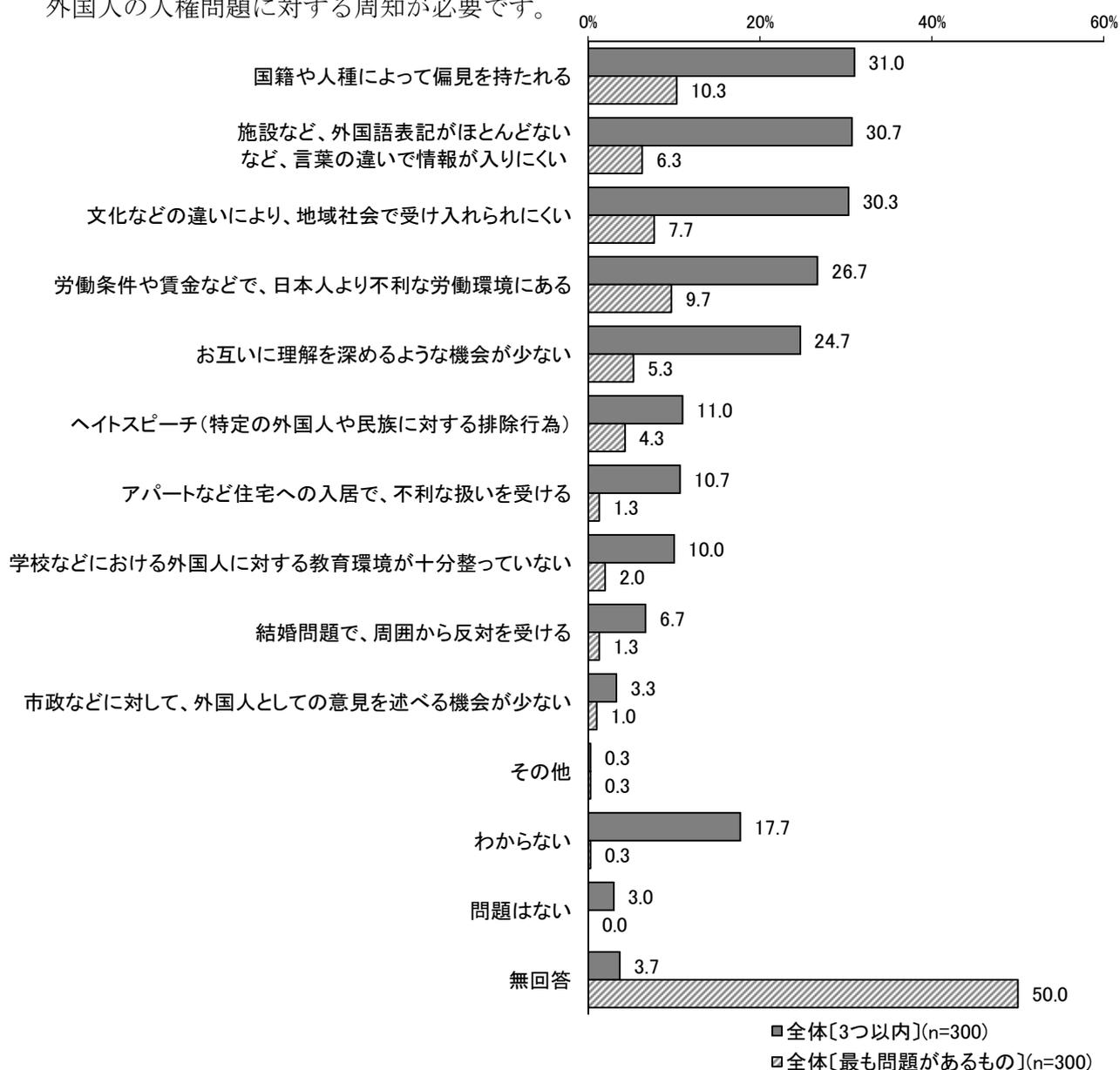
## 13 外国人の人権について

問27 外国人の人権について、特に問題があると思われるのはどのようなことですか。  
 (〇は3つ以内で、そのうち最も問題があるものひとつに◎)

外国人の人権について問題があることについてみると、「国籍や人種によって偏見を持たれる」が31.0%で最も高く、次いで「施設など、外国語標記がほとんどないなど、言葉の違いで情報が入りにくい」が30.7%、「文化などの違いにより、地域社会で受け入れられにくい」が30.3%、「労働条件や賃金などで、日本人より不利な労働環境にある」が26.7%、「お互いに理解を深めるような機会が少ない」が24.7%、「わからない」が17.7%となっています。

そのうち、外国人の人権について最も問題があるものは、「国籍や人種によって偏見を持たれる」が10.3%で最も高く、次いで「労働条件や賃金などで、日本人より不利な労働環境にある」が9.7%、「文化などの違いにより、地域社会で受け入れられにくい」が7.7%、「施設など、外国語標記がほとんどないなど、言葉の違いで情報が入りにくい」が6.3%となっています。

今回の調査結果では、「わからない」が2割弱となっていることから、外国人の人権問題に対して関心が低い・理解が十分でないと考えられます。多文化交流の機会を設けるとともに、外国人の人権問題に対する周知が必要です。



前回調査と比較可能な最も問題があるものについて比較すると、上位3項目の「国籍や人種によって偏見を持たれる」、「施設など、外国語表記がほとんどないなど、言葉の違いで情報が入りにくい」、「文化などの違いにより、地域社会で受け入れられにくい」はそれぞれ4.3、4.6、7.7ポイント減少しています。一方で、「労働条件や賃金などで、日本人より不利な労働環境にある」が4.7ポイント増加しているのは、近年、国内の人手不足により外国人労働者が増加するなかで、不当な条件の下で働かされている外国人労働者の問題が報道されるなど社会的な認識が高まっていると考えられます。

#### ▽前回調査との比較（抜粋）（単位％）

選択項目		今回調査		前回調査※1
		3つ以内	最も問題があるもの	
1	国籍や人種によって偏見を持たれる	31.0	10.3	14.6
2	施設など、外国語表記がほとんどないなど、言葉の違いで情報が入りにくい	30.7	6.3	10.9
3	文化などの違いにより、地域社会で受け入れられにくい	30.3	7.7	15.4
4	労働条件や賃金などで、日本人より不利な労働環境にある	26.7	9.7	5.0

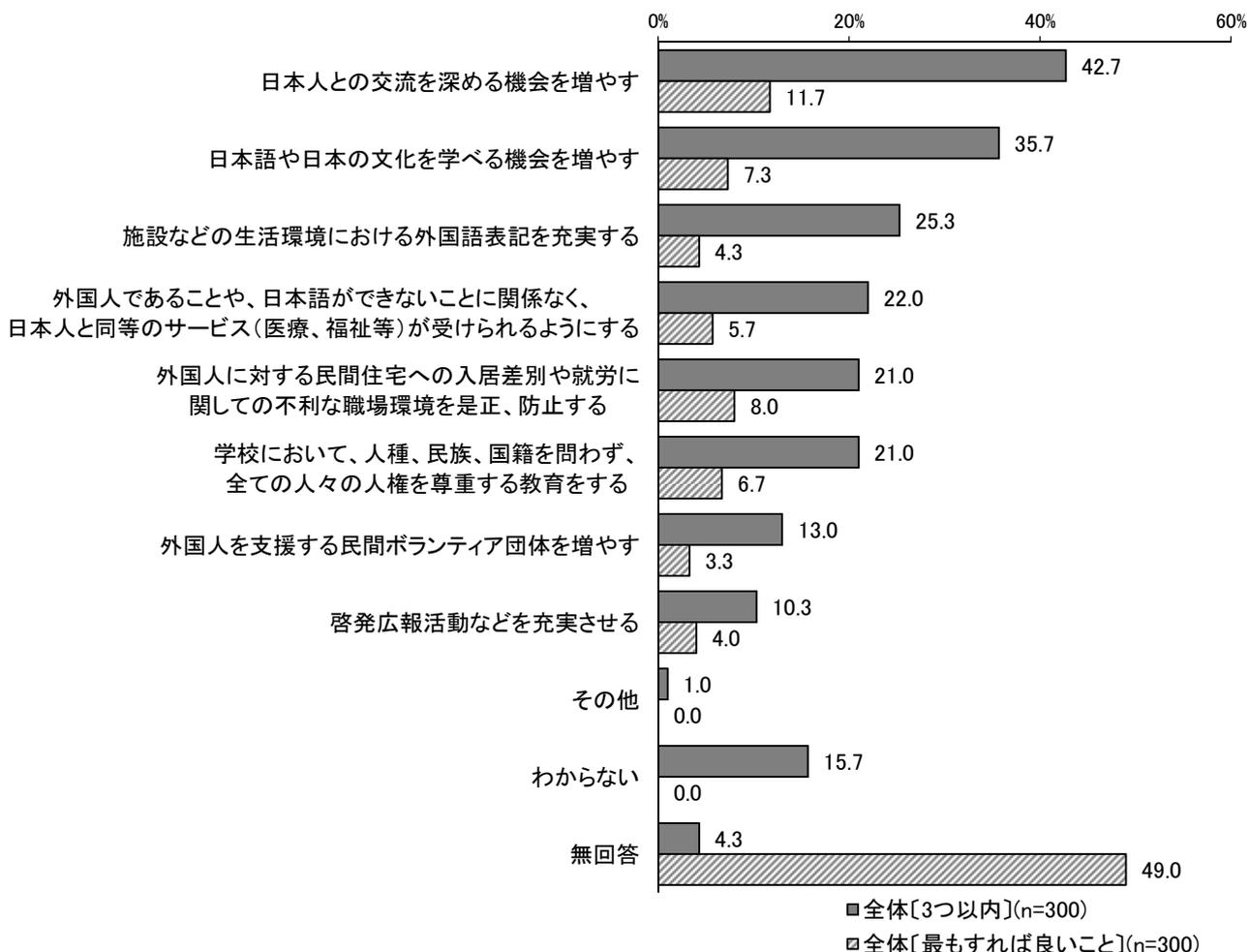
※1 前回調査では「1つに○」

問28 外国人の人権を守るには、どのようなことをすれば良いと思いますか。  
 (〇は3つ以内で、そのうち最もすれば良いことひとつに◎)

外国人の人権を守るために必要なことについてみると、「日本人との交流を深める機会を増やす」が42.7%で最も高く、次いで「日本語や日本の文化を学べる機会を増やす」が35.7%、「施設などの生活環境における外国語表記を充実する」が25.3%、「外国人であることや、日本語ができないことに関係なく、日本人と同等のサービス(医療、福祉等)が受けられるようにする」が22.0%、「外国人に対する民間住宅への入居差別や就労に関しての不利な職場環境を是正、防止する」と「学校において、人種、民族、国籍を問わず、全ての人々の人権を尊重する教育をする」がともに21.0%となっています。

そのうち、外国人の人権を守るために最も必要なことは、「日本人との交流を深める機会を増やす」が11.7%で最も高く、次いで「外国人に対する民間住宅への入居差別や就労に関しての不利な職場環境を是正、防止する」が8.0%、「日本語や日本の文化を学べる機会を増やす」が7.3%、「学校において、人種、民族、国籍を問わず、全ての人々の人権を尊重する教育をする」が6.7%となっています。

今回の調査結果では、交流機会の必要性や人権教育の重要性も示されており、文化の違いを理解するとともに、外国語版市民生活ガイドの発行、ゴミの出し方や標識案内板等を外国語や絵によるわかりやすい表示にする等で、生活環境の違いによるトラブルを避ける配慮が必要です。



前回調査と比較可能な最もすばらしいことについて比較すると、4項目とも前回に比べて減少しています。なかでも「日本人との交流を深める機会を増やす」は減少幅が12.4ポイントと大きくなっています。

本市でも外国人労働者が地域産業を支える重要な人材となっています。新しい外国人の受け入れ制度によって外国人労働者の増加が予想されます。啓発では外国人も同じ市民であること、同じように法律が適用されること、行政サービスも同じように利用できることを周知しなければなりません。

#### ▽前回調査との比較（抜粋）（単位％）

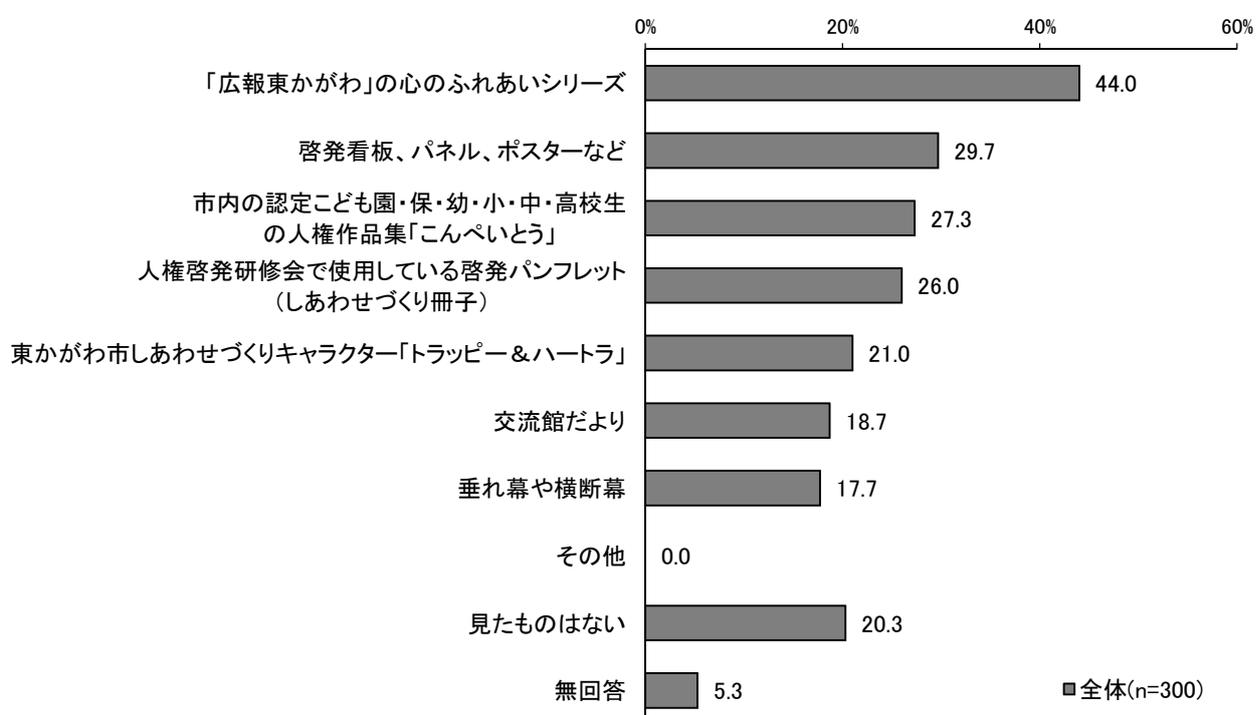
選択項目		今回調査		前回調査※1
		3つ以内	最もすばらしいこと	
1	日本人との交流を深める機会を増やす	42.7	11.7	24.1
2	日本語や日本の文化を学べる機会を増やす	35.7	7.3	15.7
3	施設などの生活環境における外国語表記を充実する	25.3	4.3	4.5
4	外国人であることや、日本語ができないことに関係なく、日本人と同等のサービス（医療、福祉等）が受けられるようにする	22.0	5.7	10.1

※1 前回調査では「1つに○」

## 14 差別解消に向けての取組み等について

問29 市で行っている、差別解消に向けた啓発の取組みを、これまで見たことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

人権尊重意識の確立や様々な差別解消に向けて、啓発パンフレットの配布などを行っていますが、これまでに見たことのあるものについてみると、「『広報東かがわ』の心のふれあいシリーズ」が44.0%で最も高く、次いで「啓発看板、パネル、ポスターなど」が29.7%、「市内の認定こども園・保・幼・小・中・高校生の人権作品集『こんぺいとう』」が27.3%、「人権啓発研修会で使用している啓発パンフレット（しあわせづくり冊子）」が26.0%、「東かがわ市しあわせづくりキャラクター『トラッピー&ハートラ』」が21.0%、「見たものはない」が20.3%となっています。



前回調査と比較すると、「『広報東かがわ』の心のふれあいシリーズ」が14.0ポイント減少しており、それ以外の項目は横ばいもしくは数ポイント程度の増加にとどまっています。

市としては「広報東かがわ」は基本的な啓発媒体なので、記事の内容や見出しなどに工夫を凝らし、魅力のあるものに改善して読者増加に努める必要があります。

#### ▽前回調査との比較（単位％）

選択項目		今回調査	前回調査	対前回比
1	「広報東かがわ」の心のふれあいシリーズ※ <sup>1</sup>	44.0	58.0	△14.0
2	啓発看板、パネル、ポスターなど	29.7	30.8	△1.1
3	市内の認定こども園・保・幼・小・中・高校生の人権作品集「こんぺいとう」	27.3	23.2	4.1
4	人権啓発研修会で使用している啓発パンフレット（しあわせづくり冊子）※ <sup>2</sup>	26.0	21.8	4.2
5	東かがわ市しあわせづくりキャラクター「トラッピー&ハートラ」※ <sup>3</sup>	21.0		
6	交流館だより※ <sup>4</sup>	18.7		
7	垂れ幕や横断幕	17.7	13.4	4.3
8	その他	0.0	1.1	△1.1
9	見たものはない	20.3	18.5	1.8

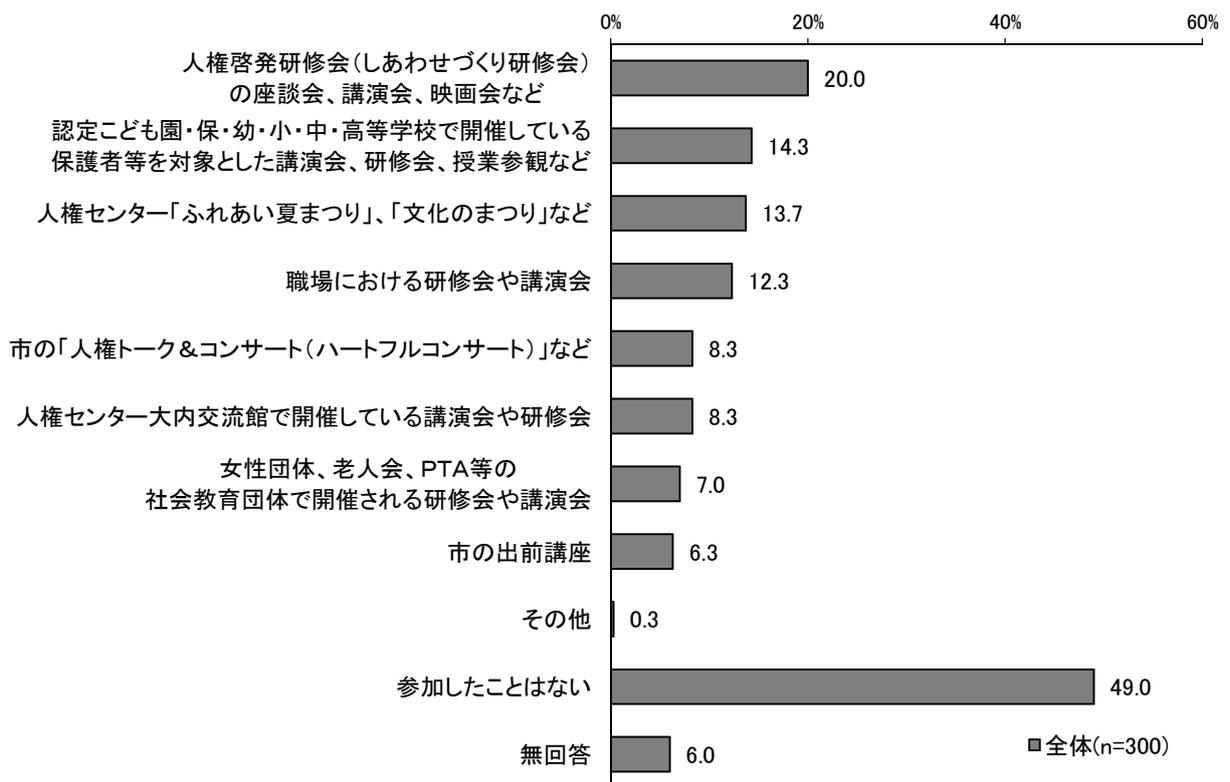
※1 前回調査では「『広報東かがわ』の人権コーナー等」

※2 前回調査では「市民（自治会）対象の人権啓発研修会で使用している啓発パンフレット（冊子）」

※3、4 今回調査のみの項目

問30 今までに市で開催している、人権に関する講演会や研修会に参加されたことはありますか。（あてはまるものすべてに○）

様々な人権問題の解消や、すべての市民の人権尊重意識の確立に向けた講演会や研修会で、これまで参加されたことのあるものについてみると、「参加したことはない」が49.0%と最も高く、次いで「人権啓発研修会（しあわせづくり研修会）の座談会、講演会、映画会など」が20.0%、「認定こども園・保・幼・小・中・高等学校で開催している保護者等を対象とした講演会、研修会、授業参観など」が14.3%、「人権センター『ふれあい夏まつり』、『文化のまつり』など」が13.7%、「職場における研修会や講演会」が12.3%となっています。



前回調査と比較すると、すべての項目においてわずかに増減がみられるものの、大きな変化はみられません。

最近では企業の社会的責任（CSR）が強調され、セクハラ対策などの職場研修が増えていきます。職場での研修会や講演会は業務として行われ、参加者は真剣です。業務との関係があるからです。単なる知識でなく、自分の問題として受け止められる研修内容を実施することが大切です。

#### ▽前回調査との比較（単位％）

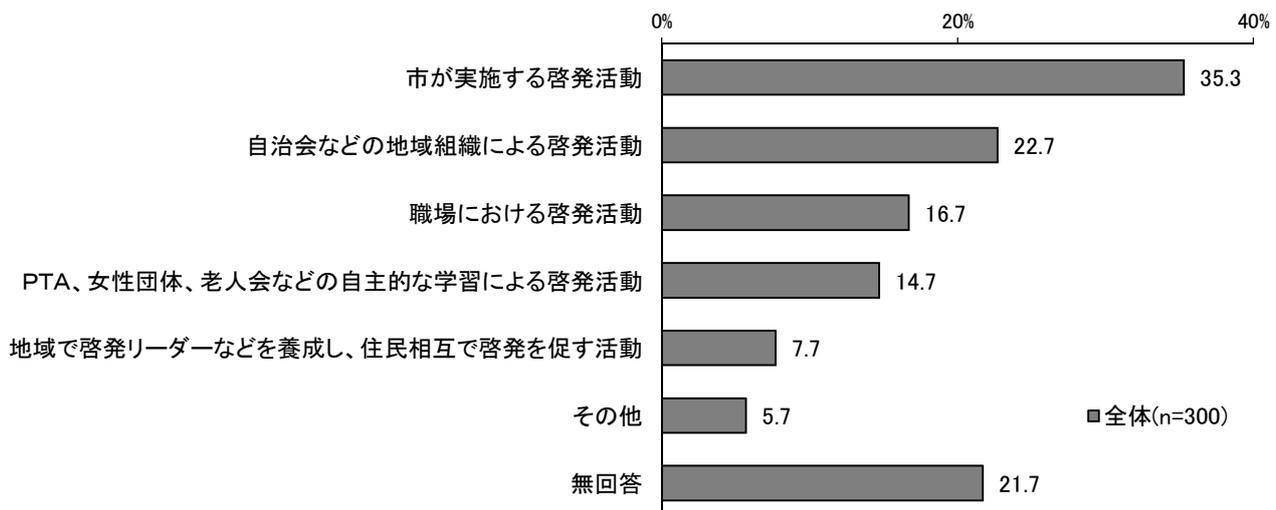
選択項目		今回調査	前回調査	対前回比
1	人権啓発研修会（しあわせづくり研修会）の座談会、講演会、映画会など※1	20.0	20.4	△0.4
2	認定こども園・保・幼・小・中・高等学校で開催している保護者等を対象とした講演会、研修会、授業参観など	14.3	14.8	△0.5
3	人権センター「ふれあい夏まつり」、「文化のまつり」など	13.7	15.4	△1.7
4	職場における研修会や講演会	12.3	9.8	2.5
5	市の「人権トーク&コンサート（ハートフルコンサート）」など	8.3	6.4	1.9
5	人権センター大内交流館で開催している講演会や研修会	8.3	5.6	2.7
7	女性団体、老人会、PTA等の社会教育団体で開催される研修会や講演会※2	7.0	9.8	△2.8
8	市の出前講座	6.3	5.0	1.3
9	その他	0.3	1.1	△0.8
10	参加したことはない	49.0	51.3	△2.3

※1 前回調査では「市民（自治会）対象の人権啓発研修会（しあわせづくり研修会）の座談会、講演会、映画会など」

※2 前回調査では「婦人会、老人会、PTA等の社会教育団体で開催される研修会や講演会」

問31 あなたはどのような啓発活動に参加したり、活用してみたいと思いますか。  
(あてはまるものすべてに○)

様々な人権問題についての理解を深めたり、様々な差別解消に向けた実践力を養成するために、どのような啓発活動に参加や活用をしてみたいかについてみると、「市が実施する啓発活動」が35.3%で最も高く、次いで「自治会などの地域組織による啓発活動」が22.7%、「職場における啓発活動」が16.7%、「PTA、女性団体、老人会などの自主的な学習による啓発活動」が14.7%となっています。



前回調査と比較すると、「自治会などの地域組織による啓発活動」が、前回に比べて4.2ポイント減少していますが、他の項目はほとんど差がみられません。

「市が実施する啓発活動」が1位になっており、行政が提供する情報は間違いないという信頼感が高く、今後も継続していく必要があります。

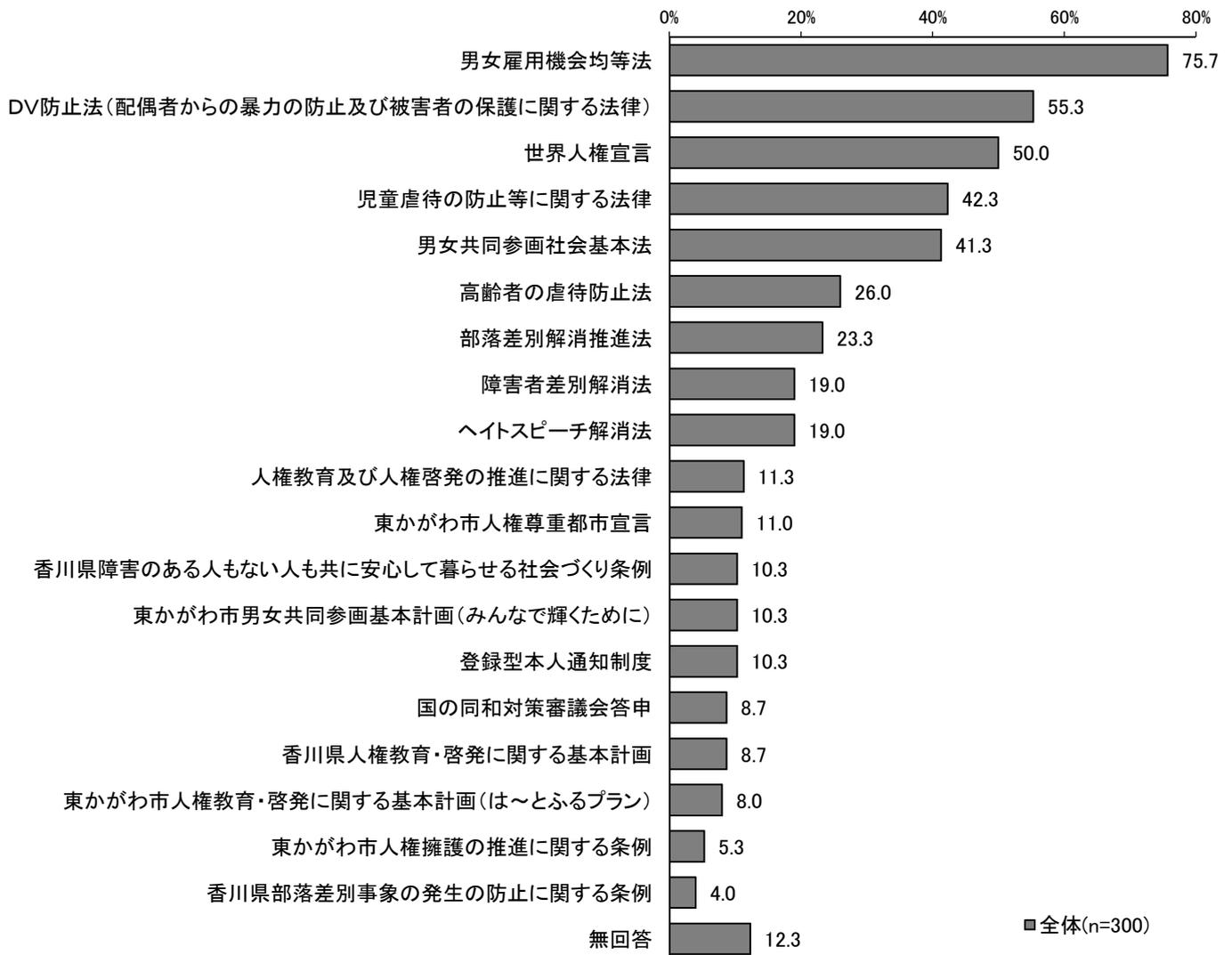
▽前回調査との比較（抜粋）（単位%）

選択項目	今回調査	前回調査※1	対前回比
1 市が実施する啓発活動	35.3	37.0	△1.7
2 自治会などの地域組織による啓発活動	22.7	26.9	△4.2
3 職場における啓発活動	16.7	15.7	1.0
4 PTA、女性団体、老人会などの自主的な学習による啓発活動	14.7	14.6	0.1
5 地域で啓発リーダーなどを養成し、住民相互で啓発を促す活動	7.7	6.7	1.0
6 その他	5.7	6.4	△0.7
無回答	21.7	14.0	7.7

※1 前回調査の設問は「あなたがさまざまな人権問題についての理解を深めたり、さまざまな差別解消に向けた実践力を養成するために、どのような啓発活動に参加したり、活用してみたいと思いますか」

問32 あなたは、次の法律、条例などについて見聞きしたり、知っているものがありますか。（あてはまるものすべてに○）

次の法律、条例などについて名前を見聞きしたり、知っているものがあるかについてみると、「男女雇用機会均等法」が75.7%と最も高く、次いで「DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律）」が55.3%、「世界人権宣言」が50.0%となっています。



前回調査と比較すると、増加した項目はなく、「児童虐待の防止等に関する法律」の7.6ポイント減を筆頭に少しずつ減少しています。法令や条例について市民の意識を高めていくよう、今後も啓発活動を続けていくことが必要だと思われます。

「部落差別解消推進法」や「障害者差別解消法」は行政など公的機関の責務を定めています。公務員は知っておく義務があります。

なお、県調査と比較すると、「部落差別解消推進法」は23.3%で県調査の31.4%より8.1ポイント低く、「県部落差別防止条例」は4.0%で県調査の10.7%よりかなり低くなっています。

### ▽前回調査との比較（抜粋）（単位％）

選択項目		今回調査	前回調査	対前回比
1	男女雇用機会均等法	75.7	76.8	△1.1
2	DV防止法 (配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律)	55.3	56.0	△0.7
3	世界人権宣言	50.0	55.7	△5.7
4	児童虐待の防止等に関する法律	42.3	49.9	△7.6
5	男女共同参画社会基本法	41.3	43.7	△2.4
6	高齢者の虐待防止法	26.0	28.6	△2.6
7	部落差別解消推進法 <sup>※1</sup>	23.3		
8	障害者差別解消法	19.0	22.7	△3.7
8	ヘイトスピーチ解消法 <sup>※2</sup>	19.0	23.0	△4.0

※1 今回調査のみの項目

※2 前回調査では「ヘイトスピーチ対策法」

### （結婚問題について）

部落差別解消推進法を根拠に従来の教育・啓発を見直し、①学校の授業と保護者啓発を充実させる②行政だけでなく企業でも結婚差別をしない取り組みを推進する③市内で順番にモデル地区を指定して市民ぐるみの身元調査お断り運動を推進するなど、次回の意識調査で変化が見えるように5年程度の集中的な取り組みを検討すべきです。

### （自分の人権と他者の人権について）

誰でも自分の人権問題に一番関心があります。しかし、人権問題は当事者性があるので人権教育や啓発では他人の人権についての理解が求められます。そこで、自分の人権と他者の人権を重ね合わせて理解する事が重要になります。その手法の1つが日常生活での具体的な人権問題の中に潜むさまざまな人権課題を学ぶ複合的な視点が必要と思われます。例えば、結婚問題では結婚の自由（憲法の規定）、部落差別だけでなく障害者や外国人などの差別問題、身元調査問題などを幅広く取り上げることができます。採用問題でも企業の責務（職業安定法の規定）、採用差別では部落問題のほかに障害者、高齢者、外国人、LGBTなどの人権問題、身元調査などがあります。自分の人権から他人の人権を、他人の人権から自分の人権を、という切り口が効果的な手法と考えられます。

## 15 自由意見

あなた自身が幸せになるために大切にしたいものは何ですか。自由にあなたの言葉で記入して下さい。

### 【人権や差別について】

1	暴力や差別のない社会をつくることである。
2	一人一人の権利が守られる事は大切です。部落の問題は昔は差別していましたが今は殆ど意識をしなくなりました。市は重大に取り上げていますが、呼び起こす様に思います。もっと一般的に住民の人権問題に重視して行くべきと思います。
3	絶対に差別をしない事を心がける。
4	差別をなくすことやみんな平等であること。
5	若い人、高齢者にも差別をなくしてほしい。明るい生活がしたいです。
6	普通の暮らし。普通の暮らしが、差別によってできない方がいるため、こういった活動があると思うが、過剰な支援や付度は、かえって問題を大きくするのではと思われる(ハラスメントや、問題のクローズアップ e t c)。私は女性だが、レディースデー等、女性を過剰に優遇していますアピールは、かえって不快に感じる。
7	このアンケートを書き進めていくうちに家族以外の他者は全ての人が人権を侵害する対象であるような気がする。家族、身内以外は全く信用できていないという心がよくわかった気がする。それだけ差別、人権侵害はそこらじゅうにあふれているということになります。
8	損得だけで人権問題を論じない。同等の権利だけ主張して、認められたとしてそれで幸せになるなどというのは夢物語。やはり底には、自分自身の生きる強さ与えられた環境の中で自分を生かすすべを学ぶ、そして成長するのが幸せというものだと思う(人間みんなそれぞれ個を持って生まれそれぞれ差がある。貧富、美醜、チャンス...)。今の社会は主張して、まわりを固めていこうとするが、どんどん何か欠如して不幸せになっているような気がする。人間はやはりお互い直に触れ合って体験して心を広げていくものだと思う。
9	自分と自分にとって大切な人たちの人権。
10	子ども、両親、家族などが人権侵害や差別に合わない、しあわせな場所であってほしいです。何かあればすぐ対応したいと思います。
11	同和問題についてアンケートがあったがこの言葉を見てずっと続いているものなんだと驚いた。差別が一番近いと思う。知ることが大切であるとも思うが、人それぞれ考えがあるが、考えることをやめて早く解決しなければならない。知らないことは聞いていくため差別につながる考えが生まれ続く。

## 【思いやりや尊重について】

1	互いに尊重し合い、楽しい日々を送る。目標を持ち、それに向って自分を高める。
2	自分の心。優しさや感謝の気持ち。
3	今十分に幸せです。残りの人生思いやりの心を忘れずに生きていきたい。
4	家族、人を大切に思う心。
5	自分が持つ考えが周りの人にとって当たり前であるとは限らないので、様々な意見や考え方を尊重することを大切にしたいです。
6	心のこもった関わり。
7	みんなが幸せになれるよう考え行動すること。
8	常に人を喜ばす事が出来るような日々をしたい。
9	私自身も欠点だらけの人間なので回りの人達も欠点を見るのではなく、いい所を見ようと思っています。そして感謝を忘れないようにしています。
10	悩んでる人、困っている人、いれば声掛けると幸せに繋げていける。
11	人に対して思いやりを持つこと。
12	人を傷つける言動はしない、身勝手な行動は慎む。
13	ささいな日常が何よりも幸せだと思うので、日々感謝しながら、他人に自分の価値観を無理におしつけず、楽に生きていきたいと思います。
14	常に相手の立場に立って物事を進めると必ず自分を守ってくれる人が現れる。最近あおり運転や子供の虐待を見るたび心が痛みます。自分本位に物事を考え時間がたった結果だろうか？そんなテレビ等を見ると自身の年は感じません。誰かの為、地域の為に交友の輪を広げ、微力ながら力になりたいと思っています。
15	誠意をもって人に接する。
16	自分が幸せになるためには、まず、自分のまわりの人を幸せにします。
17	お金も大切だけど、相手を思いやる心を大切にしたい。
18	人は、一人では生きていけないので、絆というつながりが大切だと思います。それは、家庭に始まり、職場や地域…等、自分が普段生活をしているあらゆる場でのつながり＝コミュニティです。最近は、自己中心的な言動が目立つ社会になりつつありますが、自分のことのように喜んだり、悲しんだり(一緒に泣いてくれる人)してくれる人の存在がとても大切だと感じています。それは、多分自己肯定感とか自己有用感とか言われているものだと思います。自分自身たった一人で幸せを感じることでうれしくはないと思います。一緒に喜んでくれる仲間がいてくれてこそだと思うので、私は常に”人と人とのつながり＝コミュニティ”を大切にしていきたいと思っています。
19	人の悪口を言わない。笑顔で人に接すること。
20	転勤により半年前に香川に越して来ました。差別や人権問題は一人一人の気持ちに頼らざるを得ない部分が強いと感じます。私自身が心掛けていることは人の「良いところ」を見つけようという視点で相手を見ることです。人の意見や情報に左右されずに、白い紙に相手の色をつけていくようにすれば誰とでも同様に接することができましたので、今後もこの気持ちは大事にしていきたいと思っています。
21	言葉の暴力はいとも簡単に相手を傷つけてしまう。心の傷はなかなか癒えない。言った人はそれでスッキリするのかもしれないが言われた方は…。一日一日を大切に、対人間関係も人生の勉強と思いながら生活していく。
22	相手の気持ちを考えて行動すること、自分が気が付かないうちに差別してしまっているかもしれないので、色々な研修会に参加したり、正しい知識を身につけるために、常にアンテナを張っていたい。どんな人にも、決して人を無視したり、バカにしたりしてはいけないと思います。
23	自分を大切に＝他人を大切にとなる行いに心がける。

## 【自分を大切にすることについて】

1	まず自分が自分を愛する。見せかけの自分ではなく、本当の自分がどうしたいのか何をしたいのか、心がうれしいかどうかを基準に動く。そうすると見えてくるものがある
---	---

	る。お金や地位や名誉ではない大切なもの…思いやりを最優先に生きていきたい。本当の自分の内側に問いかける事を大切にしたい。
2	幸せになるためには自分の日々の気持ちが大切であると思うが周りの環境も関わってくると思う。職場での人間関係や内容等。そのような中で自分が前向きに幸せと感じるように生きていくため大切としている趣味を大切にしたい。楽しみがあることが幸せにつながると思う。
3	自分の心。
4	自分を大切に＝他人を大切にとなる行いに心がける。

### 【健康について】

1	健康と家族。
2	健康でいる事
3	健康寿命を延ばすこと。
4	環境と体。
5	健康な心と身体の維持。
6	家族の心身共に健康であること。
7	一番は自分の健康、自分が元気でなければ人のお世話も出来ないし、地域に貢献できないと思う。毎日の食事が大切だと思ってなるべくバランスの良い献立、適度な運動を心がける。
8	元気なからだ。
9	毎日、健康に暮らせること、それには食事をおいしく食べ、適度の運動をし、家族なかよく暮らす、それが1番の幸せだと思う。小さなことでも、自分で出来ることは、進んでやり、出来たと思うよろこびが私自身の幸せであり、家族の幸せです。
10	心と身体の健康維持。食事、睡眠、運動、仕事をバランスよくして一日でも長く日常生活が送れる事。
11	自分が病気になり、仕事ができなくなって改めて健康が大切だと思うようになりました。

【家族や友人、地域のひとなどとの関わりについて】

1	家族と周りの人々、社会へ出かけること（参加すること）。
2	子どもたちとの何気ない日常、子どもたちの笑顔。
3	家族が元気で仲良く暮らせること。
4	家庭での「一家団らん」
5	家族・身内の健康、日々の生活が安定して送れること。
6	毎日できるだけ笑顔でいる。家族みんなが笑顔でいられるため。そしたら自然とみんな笑顔や明るい気持ち、幸せは伝染していくもんだと思っています。家庭内が笑顔いっぱいだと幸せがあれば乗り越えられる問題もあるから。
7	大切な家族、友人を大切に生きていこうと思います。
8	根本的にはやはり家族だと思います。
9	家族・友だちを大切に、近所同士の助け合える社会。未婚の男女が多すぎる。人間としてのあり方子どもを育てる喜び人間にしか解らない問題を話し合える場所をつかってほしい。両親に育てられる育てる教育をしてほしい。
10	家族の心身共に健康であること。
11	親子の絆。
12	家族、友達、近所、みんなの笑顔。笑顔があれば幸せになれる。
13	家族全員が互いに尊重し合い、また地域の方々とも交流し、お互い認め合うこと。その結果、地域・家族がよりよい暮らしができるような社会をつくっていくこと。
14	家族や地域、職場など、いろいろな人との絆。
15	家族、友人、知人とのつながり。
16	家族の幸せを一番大切にしたい。
17	子供の幸せが自分の幸せです。だから家族を大切にしています。
18	常に家族が健康で精神的に日々安らげる生活を送りたいです。
19	20才で結婚して苦勞も多々ありましたが、やはり家族の幸せを願うことです。孫達四世帯で生活出来る幸せです。それと、友人などが喜んでる姿を見る事も大切にしています。自分の親、主人の親、子供、孫『老いては、子に従う』年がいったら常にこの言葉を思い出し、昔の事ばかり言ってもだめだし面倒をかけないように心がけています。
20	大切な家族が地域の中で、仲良く元気で幸福に暮らしていける世の中になって欲しい。
21	夫婦の愛を大切にしたい。
22	家族の絆です。今は子供が少ない家が多いです。子どもがいっぱいて笑い声が聞こえる東かがわになったら嬉しく思います。
23	まずは自分自身が健康で、毎日元気で笑って生活できることが幸せと感じる。そして夫、子供の健康である。学校生活、就労などは大切であるが、夫、子供が不幸せを感じる環境にあるなら、変えていく必要がある。
24	まずは家族皆が仲がよいこと。親子・兄弟・夫婦間でお互い尊重し合い、いたわり合えば、自然と社会の中でもそうできると思います。

### 【どうすべきかについて】

1	一日一日を大切に生きる。
2	平和、自分らしく生きていくこと。
3	普通に暮らす。
4	趣味を持つ事、生活に必要な金品がある事。
5	正直に生きる。
6	レベルを下げる、欲張らない。
7	大切なものは命。
8	衣食住。
9	自由。プライベートでは好きな事をして好きな人達と過ごすこと。誰にも何にも縛られない。
10	お金、人間関係。
11	愛と誠。
12	他人の言動に左右されない心、信条を持つ。
13	ナチュラルに、気持ちに素直に普通が、一番では？
14	様々な人と関わり、色々な事を吸収していきたい。寛大な心を持つことができる人であることが、幸せにつながると思う「人には優しく、自分に厳しく」。
15	自分の事は自分が責任を持って行動すること。
16	年齢がいくと行動を共にしたり共感できる友人をたくさんもつことでしょう。
17	大切なのは人と人のコミュニケーションである。
18	みんなが元気が出る環境作り(職場も含む)。
19	笑顔であいさつ。

【その他の意見】

1	出会えた人、私に会って下さった方々、御縁を頂き、本当にありがとうございます。これからも、仲良くお会い出来る日を楽しみに…お互いに健康で（頭も体も）元気で過ごせますように祈りつつ。
2	人生を通してわかることなので今は答えられません。
3	日々いただいている恵み（目にみえる物、見えないものを問わず）を感じるアンテナを張り、感謝する心を持って過ごすこと。喜ぶ人と共に喜び、悲しむ人と共に悲しむことができるような人になれることでしょうか。神様はどの人も喜んで創られたのですから、自分も人も大切にできれば大いに幸せです。
4	心が傷ついたり、苦しみを抱かえている人を少しでもケアしようという世の中になればいいと思っています。児童虐待、高齢者虐待等を例に挙げれば、もちろん不当に傷つけられる児童、高齢者を救出することは最重要ではあるけれど、誰も人として生まれ、傷つきたくて傷つけているのではなく、そこには必ず心の闇や苦悩が根元にあると思っています。罰則、法律ができ、取り締まるのも大切ですが、加害者の本音から見えてくる解決策もきっとあるはずです。罪を罰するだけでは何も進まないと思うのです。それよりも起こった実証に対しての加害者心理の研究・分析が行われればと思います。「個」「孤」が懸念される時代。こんな時代だからこそ救える人を救いたい、そう思っている毎日です。
5	1. 街をきれいにするように体制づくりをする、2. イベントを通して町（市）民が楽しめるようにする、3. 困った人の相談窓口をもって、適切な対応ができるようにする、4. 特殊サギなどにあわないよう、周知会等をする、5. 災害の時の対応について、毎年体制づくりをする。
6	他人の苦しみや悲しみは自分にはわかるはずもないものだと思います。でもその苦しみや悲しみに寄り添い、いっしょに考えることはできます。人のことを大切に思うこと、思いやりをもつことで温かな気持ちにお互いになれると思います。自分だけが幸せだったらいいという考えではなく、まわりの人も一緒に巻き込んで幸せになりませんか？という各個人の心の余裕が大切だと思います。悪い気持ちも（偏見とか）スパイラルがあり伝染しますが、よい気持ち（優しさ）も必ず伝染します。優しくされたら、優しくしようとは人々は考えると思います。その“正のスパイラル”をいかに伝染させる仕組みをつくるか、実用的な仕組みのきっかけをつくるかが行政の役割と考えます。私は自身が幸せになる時は、必ずまわりの人をまきこもうと思います。このアンケートを集計されるあなたとあなたの大切な方もまた心穏やかな毎日を送られたら私は嬉しいです。この機会を与えてくださったことに感謝致します。
7	途中まで書かせていただきましたが（同和、障害、年寄）人権問題すべて家庭内とか本人の事なので自分自身が判別して頑張った方がいいと思う。国、県、市、町、いろいろと世話をさせていただいていると思いますが、余りやり過ぎず、減らしていったらいいと私は思う。問題が多過ぎますね、頑張ってください。
8	ご苦労様です。とてもナイーブな問題だと思います。特別にプロジェクト組むのではなく、ナチュラルに、気持ちに素直に普通が、一番では？ありがとうございました。
9	これから先は分からないが、比較的恵まれた環境にいると思われる。子どもが、いじめを受けたことはあるが、本人が強い意志を持っていたため、悲しいことにはならなかった。
10	今のままの生活、活動を元気な限り続けられる場を市も応援して作って行って下さい。